

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470201209
法人名	有限会社 コーブンシャ
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地 (電話番号)	四日市市笹川2丁目175番地 (電話) 059-322-3305
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日(火)

【情報提供票より】 (H19年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(1人部屋)40,000円(2人)37,000円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要(8 月 17 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79 歳	最低 63 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	品川病院 大歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表の一人暮らしの母親が認知症に罹り『住みなれた自宅で同じ病の人達と穏やかに安心して暮らし続けて欲しい』との思いから典型的な民家改修型グループホームとして開設された。閑静な住宅団地の一角に位置し、古くからの近隣との付き合いも継続されており、利用者にとって自宅での生活と変わらない違和感の少ない雰囲気の中で温かい介護が受けられるホームとなっている。
職員は20代から60代までバランスよく配属されており、孫・嫁・姉妹感覚で利用者との家庭的な関係を築き、理念の“ゆっくり、いっしょに、楽しく”に副った支援が実践されている。また、今年に入り看護師が採用され、健康管理にも行き届いた介護が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時や感染症等の対応に関し、看護師を採用し医療・健康支援を手厚く改善している。また重要事項説明書や金銭支援等の問題点も全て適切に改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が個人やグループで自己評価に取り組み、ケア会議で検討され管理者が完成させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の準備は整っているが、開催には至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族訪問時や家族への電話等の連絡時には利用者の状況報告や些細な意向も意識して聞き出す様に努め、ケア改善につなげている。また、ホーム内・外の相談・苦情窓口は重要事項説明書や玄関壁へ掲示し、家族への周知を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表の生家を改修したホームで、地域住民との交流は深く、自治会活動や地域行事には頻繁に参加している。 ホーム行事にも近隣住民の参加を呼びかけ、多くの訪問を受けている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設以来、明確な温かい理念『ゆっくり、いっしょに、楽しく』が作り上げられているが、制度改革(地域密着型サービスに位置付け)にも則した理念に合っているか検討が行われたことは無い。	○	全職員で地域密着型サービスの意義を話し合い、現在の理念で足りない所が無いかが検証して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に理念は浸透しており、理念に副った支援が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表の生家を改造したホームで地域住民との交流は深く、自治会活動や地域行事には頻繁に参加している。また、ホーム主催の行事にも近隣住民の参加を呼びかけ、多くの訪問をうけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の問題点はミーティング等で検討され、全て改善されている。今回の自己評価も、職員全員が個人やグループで取り組みその意見を集約して話し合いの上、提出されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の準備は整っているが、開催には至っていない。	○	地域に密着したサービスを展開するために、早急の開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、介護相談員(市派遣)の訪問を受け意見交換を図っている。また、市主催の市(高齢福祉課)・グループホーム事業者・介護相談員の三者懇談会に参加しサービス向上のための話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回暮らしぶりや行事案内・職員異動等を掲載した『ほのぼの通信』を発行し、預かり金収支報告と共に家族へ送付している。健康状態は変化に即して電話で随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意向は、家族の訪問時や電話連絡時に些細なことでも意識して聞き出し、ケアの改善につなげている。 ホーム内・外の相談・苦情窓口は重要事項説明書や玄関壁への掲示で家族に周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間の職員交代は、1名のみで、安定した職員体制が執られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・グループホーム連絡協議会等の実施する研修案内は事務所に掲示し、希望者の参加を促している。職員は出張扱いで参加しており、研修内容は報告書を作成しミーティングや回覧で全職員への共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や市主催のグループホーム事業者・介護相談員・市(介護高齢福祉課)三者懇談会に出席する等、同業者との交流・意見交換を積極的に行いサービス向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時には、施設長と管理者が本人・家族と面談し、ホームを見学してもらい、体験入居(1週間)を経て本人・家族が納得のうえで入居に到っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は20代から60代までバランスよく採用されており、利用者からは孫・嫁・妹感覚で受け入れられている様子で、日々教えられたり頼りにされたりとお互いに支えあって家庭的な生活をつくりあげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室で趣味に没頭する人、ドライブ好き喫茶店好きの人と一人ひとりの暮らし方や意向を職員はよく把握しており、出来る限り希望に副った支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが日々の介護記録や家族の意向・ケア会議での意見を集約し、一人ひとりのきめ細かいアセスメントによる具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標期間は最長3ヶ月に計画されており、見直しが行われている。また、様態の変化の激しい利用者には、主治医や家族と連携を密に取り、即応した見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や馴染の美容院への送迎、ドライブなど本人や家族の要望に応えた支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は原則家族が行っているが、必要に応じホーム看護師が各主治医と連絡を取り合って適切な健康管理を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム方針として利用者が重度化し医療行為が不可欠になった場合は入院を優先し、『何らかの形で食が取れるまで』を限界にターミナルケアが考えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はトイレ介助や言葉づかいには注意を払っており、利用者の個人的な話は利用者のいない所でする様心掛けられている。 記録等の個人情報は事務室に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は目覚めた人から朝食を取り、昼食・夕食・リハビリ体操等の日課は一応の時間が決まってくるが、声掛けはするが無理強いことなく、各自のペースに副って支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューから材料調達・調理まで職員が行っており、利用者にも家庭菜園の収穫や炊飯準備・調理手伝い・片付け等で出来る範囲で能力を発揮してもらい日々の食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後には毎日入浴準備がされており、隔日には入浴してもらおう声掛けをしている。希望者は毎日でも入浴可能で一人ひとりの意向や能力に副った介助が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	進んで家事を手伝う人、自室で趣味(折鶴・絵画)に没頭する人、庭の草取りの得意な人と各利用者の得意分野を尊重して発揮してもらおう様、職員は行き届いたサポートを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物希望には気軽に対応されており、外出嫌いの人にもゴミ出しを手伝ってもらったり、家庭菜園の収穫に誘ったりと1日1度は外気に接する機会を工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・各種窓は夜間以外施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を実施し、ホーム内での緊急時対応・連絡体制は整えられている。	○	運営推進会議等に地域住民代表にも参加してもらい、緊急時の近隣住民の協力への理解をお願いし、安心できる緊急体制の構築を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは定期的に系列施設の栄養士に点検してもらっており、食事・水分の摂取量記録、体重の増減、血液検査等で一人ひとりの栄養状態を把握し適切な支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型ホームで、どの空間も住み慣れた自宅の雰囲気漂っており、穏やかに生活できる住居となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自、思い思いの用品を持ち込み自由に装飾され、好みの居室造りが成されている。		